

因島業界動向

2022年1月～3月

(令和4年1月～3月)

因島商工会議所

【因島経済動向調査(DI方式)報告】

(調査の概要)

1. 調査方法 FAX送信によるアンケート調査(景気観測調査の回答使用)
2. 調査内容 ①景況のほか、生産額・売上額など6項目について、令和4年3月の状況と前年同月調査との比較
②同一項目における令和4年4月～6月の先行き見通し
3. 調査時期 3月初旬～下旬
4. 調査対象 51社(製造業：17社 非製造業：34社)
5. 回収状況 回答 35社(製造業：16社 非製造業：19社)
回答率 68.6%

DI：各調査項目についての判断の状況を示す。ゼロを基準に、プラスの値は景気の上向き傾向（「良い」）をあらわす回答割合が多いことを示し、マイナスの値は景気の下向き傾向（「悪い」）をあらわす回答割合が多いことを示す。

DI = (増加・好転など「良い」の回答割合) - (減少・悪化など「悪い」の回答割合)

※注 原材料・商品仕入価格：DI = (下降) - (上昇)

製品・商品在庫：DI = (不足) - (過剰)

従業員：DI = (不足) - (過剰)

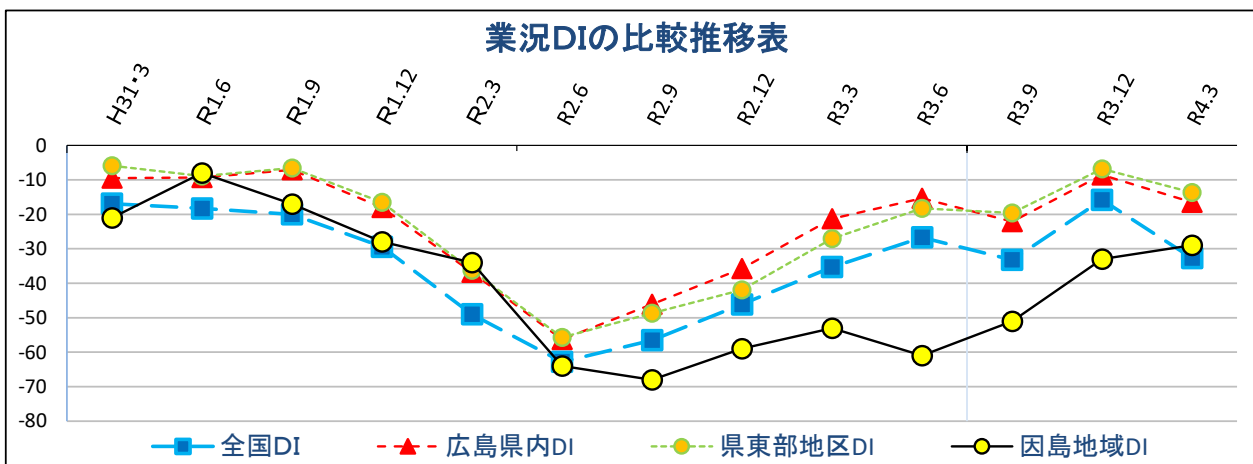
～因島景況の総括 令和4年3月期～

全業種DI（良い－悪い）は、▲29（前回12月調査▲33、R3.3月調査▲53）で前回調査から比較して4ポイント上昇となった。

製造業では、船舶造修：▲20（前回12月調査▲50）と前回調査比で30ポイント上昇。その他機械金属：0（前回12月調査 0）で、製造業DIは▲18（前回12月調査▲27、R3.3月調査▲36）と9ポイント上昇となった。

国内造船所が新造船受注から修繕部門にシフトチェンジしていることにより、修繕での受注競争が激しくなっているが、船主の建造意欲の高まりもあり国内造船所へも受注が回ってきている。自動車部品については半導体不足が解消し、増産の傾向となっている。

非製造業では、建設業：▲25（前回12月調査 0）、卸売業：▲40（前回12月調査▲50）、小売業：▲67（前回12月調査▲33）、運輸・サービス業：▲29（前回12月調査▲50）で、非製造業DIは▲36（前回12月調査▲36、R3.3月調査▲65）で前回調査時と横ばいになった。当期は広島県の蔓延防止等重点措置が発令。飲食店の休業や時短営業による影響で関連業種は前期より減少したものの、解除後はホテル等で改善が見られた。小売業では影響を大きく受け、前回調査より大幅減となっている。



【令和4年3月期 景況DI】

《上段：当月調査分、中断：前回調査分、下段：R3.3月》

	好転	横ばい	悪化	DIポイント
全業種(当月)	11%	49%	40%	▲29.0
(前回)	8%	51%	41%	▲33.0
(前年同月)	3%	41%	56%	▲53.0
製造業(当月)	13%	56%	31%	▲18.0
(前回)	13%	47%	40%	▲27.0
(前年同月)	7%	50%	43%	▲36.0
非製造業(当月)	11%	42%	47%	▲36.0
(前回)	5%	54%	41%	▲36.0
(前年同月)	0%	35%	65%	▲65.0

【令和4年4月～6月の先行き見通し 因島景況】

全業種DI（良い－悪い）は▲28（前回12月調査▲33、R3.3月調査▲62）と前回調査より5ポイント上昇の見通しである。

製造業では、船舶造修：▲20（前回12月調査▲25）と5ポイント上昇。機械金属：0（前回12月調査+20）で、製造業DIは▲13（前回12月調査▲20、R3.3月調査▲50）で、7ポイント上昇の見通し。

自転車部品について、製品のモデルチェンジの影響により増産の見通しとなっている他、船舶については今後の受注は依然不透明な時期が継続する予測である。

非製造業では、建設業：▲25（前回12月調査0）、卸売業：▲60（前回12月調査▲67）、小売業：▲67（前回12月調査▲67）、運輸・サービス業：▲29（前回12月調査▲37）で、非製造業DIは▲42（前回12月調査▲40、R3.3月調査▲70）の見通し。

ウクライナロシア間の戦争長期化により輸入木材の入手が難しくなることから、建設業は減少の見通し。その他ホテル部門では今後のコロナの感染者推移やワクチン接種、更に治験段階である飲み薬の承認・流通次第で大きく見通しは変化していくものとみられる。

【令和4年4月～6月先行き見通し 景況DI】

《上段：当月調査分、中断：前回調査分、下段：R3.3月》

	好転	横ばい	悪化	DIポイント
全業種(当月)	6%	60%	34%	▲28.0
(前回)	5%	57%	38%	▲33.0
(前年同月)	6%	26%	68%	▲62.0
製造業(当月)	6%	75%	19%	▲13.0
(前回)	7%	66%	27%	▲20.0
(前年同月)	7%	36%	57%	▲50.0
非製造業(当月)	5%	48%	47%	▲42.0
(前回)	5%	50%	45%	▲40.0
(前年同月)	5%	20%	75%	▲70.0

～因島生産額・売上の総括 令和4年3月期～

全業種DI（良い－悪い）は▲23（前回12月調査▲29、R3.3月調査▲41）で4ポイント上昇となった。

製造業では船舶造修：0（前回12月調査▲50）、機械金属：+25（前回12月調査0）で、製造業DIは0（前回12月調査▲20、R3.3月調査▲21）で20ポイントの上昇となった。

資機材価格の高騰が続いている為、採算が取れるまでには届いていないものの、一般商船の海上運賃上昇や円安による為替差益が発生しており、次第に改善している。

非製造業では、建設業：▲25（前回12月調査▲40）、卸売業：▲40（前回12月調査▲33）、小売業：▲33（前回12月調査▲33）、運輸・サービス業：▲57（前回12月調査▲38）で、非製造業DIは▲42（前回12月調査▲36、R3.3月調査▲55）で、前回調査から6ポイント減少となった。

当期の半分以上が蔓延防止措置期間となり、飲食関連業種を中心に売上減少の回答が多かった他、世界情勢悪化による商品の在庫不足や原材料値上げが追い打ちとなり、非製造業種は厳しい期間となった。

【令和4年3月期 売上DI】

《上段：当月調査分、中断：前回調査分、下段：R3.3月》

	好転	横ばい	悪化	DIポイント
全業種(当月)	20%	37%	43%	▲23.0
(前回)	14%	43%	43%	▲29.0
(前年同月)	21%	24%	62%	▲41.0
製造業(当月)	31%	38%	31%	0.0
(前回)	20%	40%	40%	▲20.0
(前年同月)	29%	21%	50%	▲21.0
非製造業(当月)	11%	36%	53%	▲42.0
(前回)	9%	46%	45%	▲36.0
(前年同月)	15%	25%	70%	▲55.0

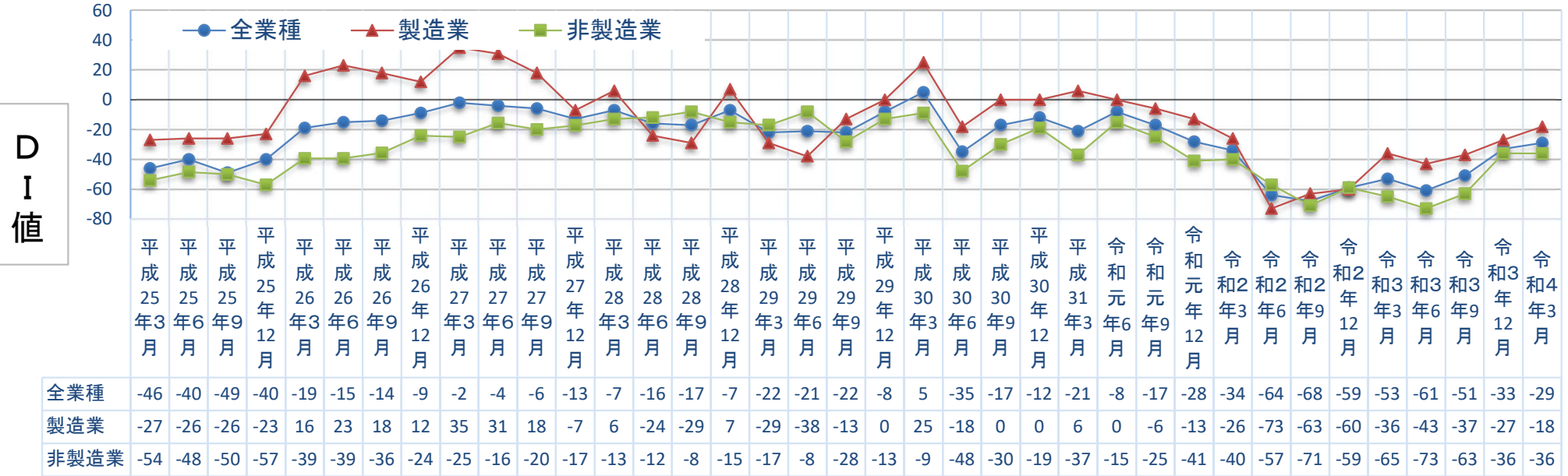
【令和4年4月～6月の先行き見通し 因島売上】

全業種DI（良い－悪い）は▲18（前回12月調査▲24、R3.3月調査▲50）で前回調査から見ると6ポイント上昇の見通しである。

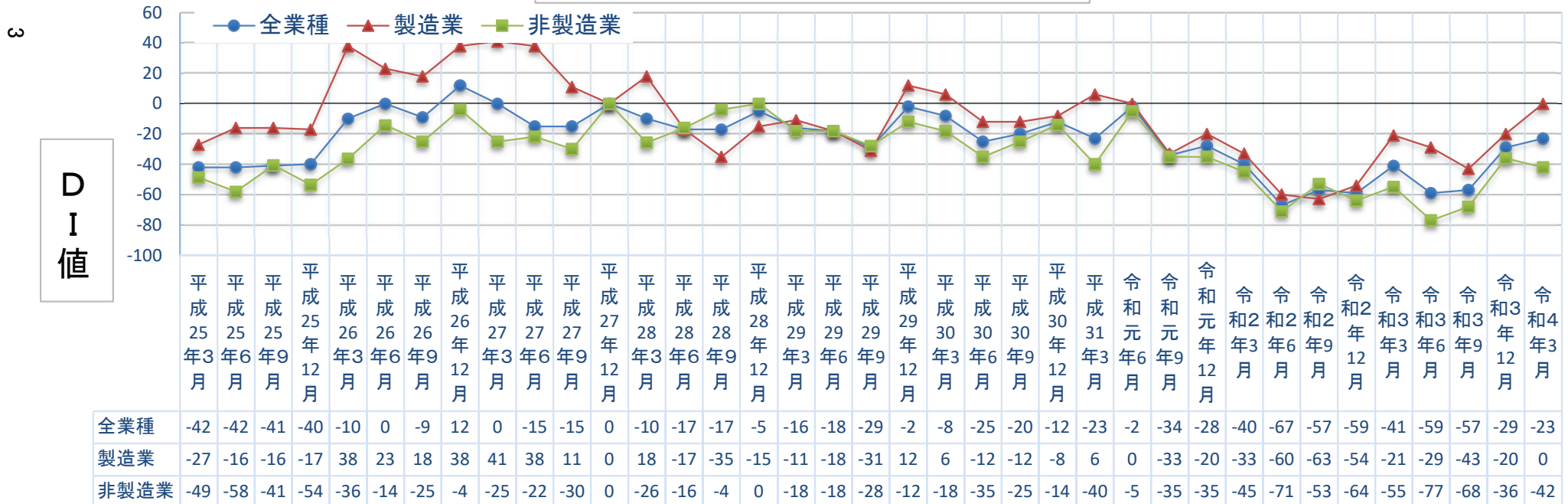
製造業では船舶造修：▲20（前回12月調査▲25）、機械金属：+50（前回12月調査+20）で製造業DIは▲12（前回12月調査▲7、R3.3月調査▲50）で前回調査より5ポイント減少の見通し。

非製造業では、建設業：0（前回12月調査▲20）、卸売業：▲20（前回12月調査▲50）、小売業：▲33（前回12月調査▲67）、運輸・サービス業：▲25（前回12月調査▲25）で非製造業DIは▲21（前回12月調査▲36、R3.3月調査▲50）と前回調査より15ポイント上昇の見通し。

因島地域の景況感の推移



因島地域の生産額・売上額の推移



6. 【経営改善資金推薦状況】

(単位：件、万円)

年 月	項 目	推 薦					決 定			
		件数	前年比 (%)	金 額	前年比 (%)	運 転	設 備	件数	金 額	前年比 (%)
令和2年度		36	97	31,470	83	27,110	4,360	34	29,470	81
3 年 度	第1／四期末	7	35	4,820	27	4,420	400	7	4,820	30
	第2／四期末	5	71.4	4,670	66.6	2,290	2,380	4	4,550	64.9
	第3／四期末	4	100.0	5,500	132.5	5,500	0	4	4,120	99.3
	第4／四期末	5	55.6	2,400	27.0	2,300	100	5	2,400	27.0
	合 計	36	97.3	31,470	83.2	27,110	4,360	34	29,470	81.3

(因島商工会議所調)

7. 【因島商工会議所会員数】

区 分	12月31日現在 会 員 数	新規会員数	脱退者数	3月31日現在 会 員 数
法 人	488	6	10	484
個 人	460	2	12	450
合 計	948	8	22	934

8. 【今期のアンケート調査結果】

回答件数 23件

新型コロナウイルス感染症の影響が依然続く中、2021年度の新卒採用の状況について調査を行った結果、採用活動を実施している11社中6社が採用活動を実施しておらず、感染症の影響が長期化している為ではないかと推測する。これ以上の影響長期化は各事業所の活動に大打撃を与えかねない。

